

## 平成17年度 自主調査研究

### 食と器の力でつくる地域ブランド ～山形県真室川町の挑戦～

(財)東北開発研究センター(会長:弊社会長幕田圭一)は、「地域ブランド形成に向けた地域づくり活動の実践に関する調査・研究」を東北電力株式会社から受託しておりますが、このたび当調査結果を取りまとめた報告書を発行いたしました。

今回の調査は、平成16年度に同センターが行なった基本調査・研究をベースに、平成17年度に次のステップとして、山形県真室川町をモデル地域に、「地域ブランド」形成の実践調査・研究を行なったものです。

自然や文化など、地域固有の資源を活かし、「地域に暮らすことの豊かさに気づき、住む人が誇りをもって生きる地域」をつくっていく取組みが、地域内外の多くの人の共感を得て支持を得られること、それが「地域ブランド」であり、「この地域をより良くしていきたい」という人たちの思いを「形」にしていくプロセスの普遍化が求められています。

報告書では、真室川町の風土・文化に根ざした「食と器」をテーマに、半年間にわたる住民と行政の協働による地域ブランド形成に向けたプロセスとその成果、今後の可能性について記録しています。

実践活動のコーディネーターには民俗研究家の結城登美雄<sup>ゆうきとみお</sup>氏、木工指導者には木工デザイナーの時松辰夫<sup>ときまつたつお</sup>氏を迎え、ワークショップなどにおける指導を通して、地域の人たちのやる気を引き出し、地域ブランドを形にしていく過程を描いています。

活動記録では、真室川町のブランドづくりに対する、地域の女性たち、そして男性たちの生き生きした取組みが記載されています。地域の「食」を見つめ直し、新たな「食の形」を生み出していく過程や、森林資源を活かした「器」づくり、伝統的な「番楽」への取組みなど、地域の複数の要素を組合せた「もてなしの形」づくりへと、住民と行政が一体となって取組み、成し遂げたことへの達成感が表現され、これらを総括した「地域ブランド」形成への提言が行なわれています。

本報告書は、自治体や地域活性化に取り組んでいる関係団体等へ配布するほか、当社ならびに関係諸団体が主催する勉強会・セミナー等で活用していくこととしております。

以上

## 【報告書の概要】

### 1. 地域ブランド形成に向けた実践

○「今の暮らし」を豊かにする地域ブランド

地域ブランドとは、「地域固有の資源を生かし、地域に暮らすことの豊かさを体現して、地域の総合的魅惑や価値を作る取り組み」が、結果として地域内外の人から評価され支持されたものである。それは、人々の「今の暮らし」の質を高め豊かにしていくために、地域に内在する資源に光をあてて、新しい価値を作り出す取り組みから始まる。その地域ブランド形成に向けた実践を、山形県真室川町で試みた。

### 2. 地域固有の資源・文化を活かす「地域ブランド」形成

○豊かな「食」の資源、伝承文化、神様に感謝する精神文化

真室川町は豊かな山や川の恵み、長い冬を乗り越えるための多様な保存食の技術、それらに育まれた「食」の資源がある。また、番楽・昔話・童歌・囃子等の伝承文化が継承されるとともに、今もなお「神様」に感謝し、共に喜び合う精神文化が残されている。

○豊かな森林資源を活かした「器」づくり

三方山に囲まれた真室川町には漆をはじめとする豊かな森林資源がある。もともとこの地方には冬の手仕事としてのものづくりの「技」があった。そのものづくりの文化を復活させることにより、真室川の豊かな「食」を盛る「器」づくりができる。

○「あがらしゃれ」の心を込めた「食べ事の形」、「もてなしの形」

この「食」と「器」で食べる豊かさを共に楽しむ「食べ事の形」つくることを、地域ブランド形成の目標とした。これに番楽等の伝承文化や、当地に伝わる民謡でもてなしの心を謡う「あがらしゃれ」の精神を込めた、「もてなしの形」を作り出すことにした。

### 3. 地域の人々の参画と「やる気」を引出すプロセス 意識共有と表現の場づくり

○「食べ事会」の活動：地域の女性達による四季の伝統食、行事食づくり

女性達が「日常の食の力」を発揮し、真室川の食の奥深さを再発見した。

○「器のワークショップ」の活動：男性たちが木工・漆で「売るための器づくり」

女性達も漆の可能性を広げるために、木以外のワラ、布による器づくりに取組んだ。

### 4. 地域資源の価値化

○地域の資源、人の力が集まる「食と器の文化祭」

食べ事会、器のワークショップの活動成果を発表し、地域内外の人に真室川の資源の魅力、価値を評価してもらう場として、「食と器の文化祭」を開催した。内外から 350 人が集まり、

真室川の食と器が融合した「食べ事の形」「もてなしの形」は大きな反響を呼んだ。

女性達は真室川の「食の力」に、男性達も「器づくり」に大きな自信を得た。自らの力、地域の力に気づくことによって生まれたエネルギーを糧に、「真室川ブランド創造に向けての新たな一歩」を踏み出すことになった。

## 5. 地域ブランド創造へのステップ

○「地域の食卓づくり」の5つの柱

これからの地域づくりは「地域力」からはじまる。真室川町の地域ブランド形成への取組みは、「食と器」という暮らしの基本テーマから始まった。

今後の方向として「地域の食卓づくり」への取り組みがあげられる。

具体的には、①地域の食材を準備すること、②伝統・文化を踏まえると同時に新たな調理・料理の研究開発をすること、③料理に連動する地域の器を開発すること、④町内に多様な食事の場をプロデュースすること、⑤実践と検証を踏まえたプロモーションを行なうこと、の5つの柱で進める。

これは、「食と器の力を地域の中に組み込んでいくこと」によって、真室川の食の暮らしを豊かにしていくプロジェクトであり、同時に器づくりから林業を、食づくりから農業を再デザインすることから、地域産業の再生を図っていくものである。

以 上